

建設業

回答企業58企業

概況



～業況判断D I 値 やや改善傾向～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比12.0ポイント上昇の1.7と改善、前回調査予想値(▲1.7)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で8.6ポイント低下の6.9、売上数量が15.5ポイント低下の1.7、利益でも5.2ポイント低下の▲13.8と業況判断D I はやや改善したが、項目別では悪化となった。

公共工事の受注は例年並みに推移。一般住宅については資材高騰の影響から、見込んでいた単価と合わず工事の変更、延期、キャンセル等が発生している。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

一般住宅の新築受注についてはやや減少傾向にあるが、リフォームは堅調に推移。

土木工事業は、公共工事を主体に好調に推移。

管工事業は、公共工事・一般工事とも好調に推移。

電気工事業は、受注安定推移となった。

各業種とも猛暑が続いた事により作業効率が悪化し利益にも多少の影響があった。

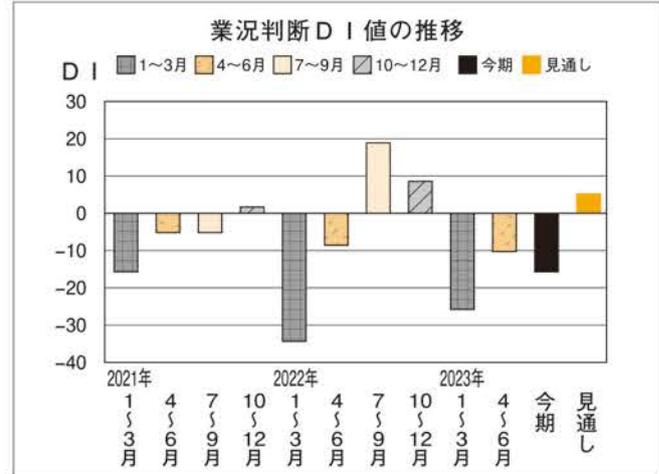
来期の見通し



～業況判断D I 値 全項目でやや改善の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比8.6ポイント上昇の10.3と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で1.7ポイント上昇の8.6、売上数量が0.0ポイントの1.7、利益は19.0ポイントの上昇で5.2となった。

業者間格差もあるが、やや改善での推移を見込んでいる。資材の高騰影響による利益の確保、人材不足による受注調整など各企業とも対応に苦慮している。



製造業

回答企業33企業

概況



～業況判断D I 値 横ばいで推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比3.0ポイント低下の0.0とやや低下したが、前回調査予想値(▲6.1)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で18.2ポイント低下の12.1、売上数量が18.2ポイント低下の12.1、利益でも24.2ポイント低下の▲12.1と全項目で悪化した。

価格転嫁による売上高の減少や、原材料および燃料費の高騰が続いていることから、利益の減少など総合的業況はやや悪化となった。

分野別の状況

～総合的業況 横ばいで推移～

食料品製造業は、ねぷた祭りや各種イベントの開催から概ね売上増加となった。原材料価格高騰による商品価格改定から売上減少となった企業もあった。

印刷業では、紙印刷の売上の低迷が続いている。来期の年賀状印刷も厳しい見通しとなっている。

建設資材製造業は、受注は堅調に推移し資材高騰に対する価格転嫁も行われているが、人材不足傾向にある。

衣料・縫製業はスーツ等の需要が低下する時期により低調に推移。材料費高騰より利幅も減少傾向にある。

来期の見通し



～業況判断D I 値 やや改善の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比12.1ポイント上昇の12.1とやや改善の見通しである。項目別では、売上・受注で0.0ポイントの12.1、売上数量が6.0ポイント低下の6.1、利益では15.1ポイント上昇の3.0とやや改善の見込みとなったが、売上数量はやや悪化となった。

業種にもよるが、季節的要因から業況の改善は見込めるが、原材料の高騰、人員不足などの問題もあり対応に苦慮している。

